

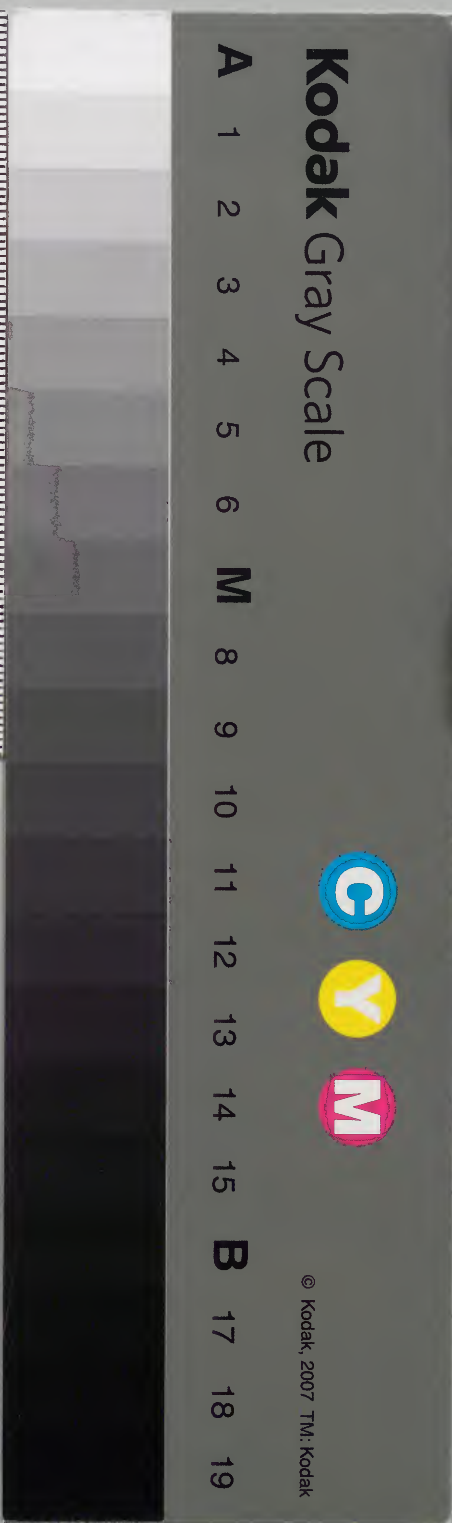
八雲抄

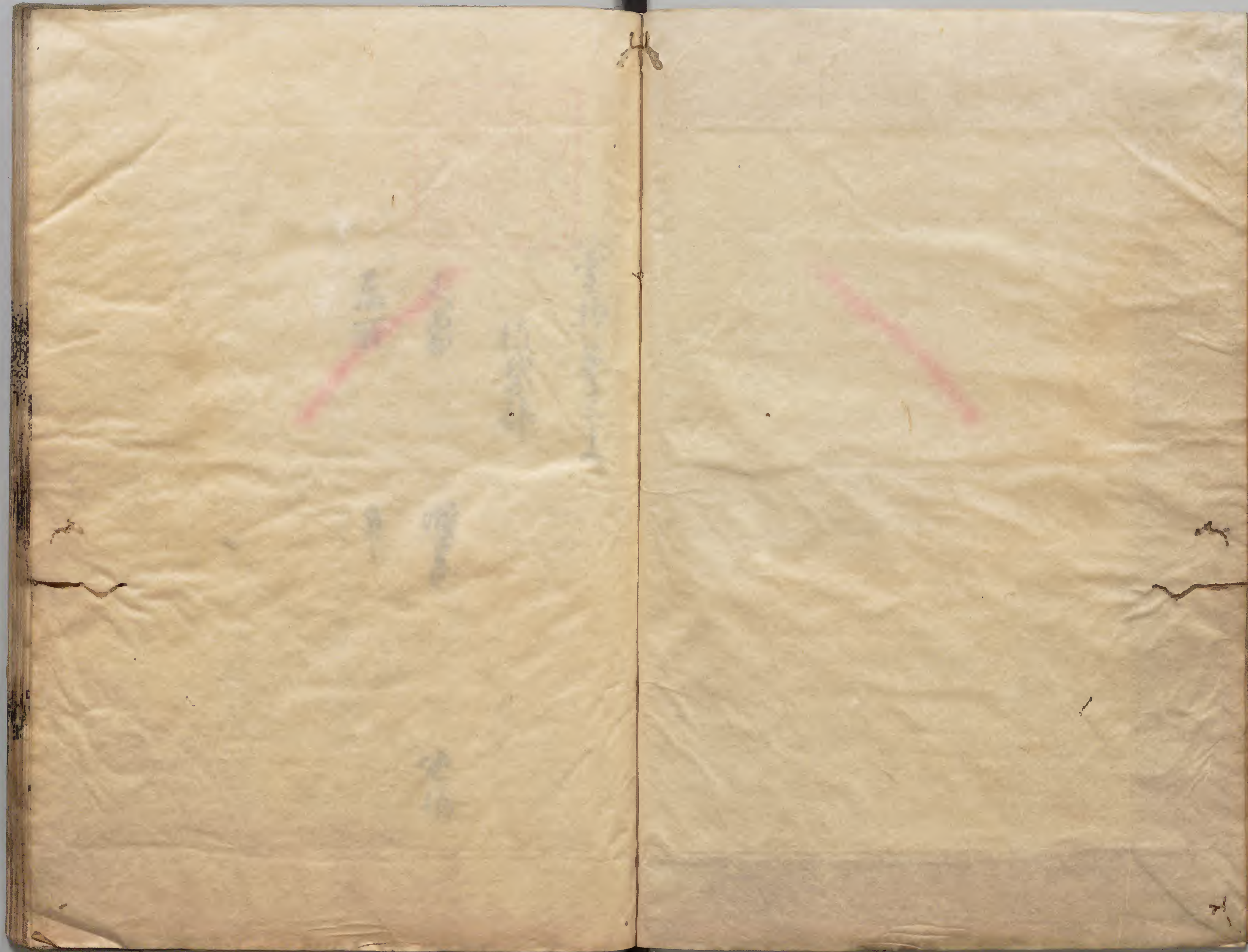
第三上

和書門			
七册	二架	三七函	四三三八號
類			

內閣文庫		
二二函	四三三八號	和書
一七架	三七册	類

內閣文庫		
番號	和 43384	
冊數	7 (3)	
函號	202	2







雲抄第三上

校書部

天象

天象

辰辰

辰辰

池儀

天象記

天

わま せきしんこと云

浅草文庫

河原ふらう 見せらう ちのちのち ちのち海

おのろう ちのちん 後記抄

見せり乃ること云ハ 梯炭紀流 南浮列八浪海

山聖海流ふらうのちん見せり也といなり

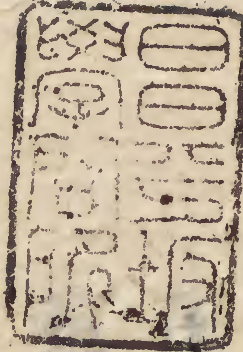
あまのうららこと云ハ 天比らめくめ林と林

とありぬく海とせりし書海と云くは海也

あふとちんこと云ハ ちのちん

あま乃いしらうこと云ハ ちのちんひのちのちん

てをひのちのちん



初り河を乃月を 十六日辰といふく 主匠等
 誰生傳いさよひ乃月を十六日辰といふく 是源氏
 安加や 但方家よハ不知新暦月とあり 凡上
 旬月を五ノ月と雖 十六日十七日自月源を何難哉
 但有人疑皆十六日也を云然 ともゆ 得たありよ
 云くともいふあり 可世なる月を凡ち云く事あり
 とも云又細成あり といふ月いさよひ乃月よ
 河くさ致り 可十七日乃月いさよひ乃月といふん
 して事ありいづらるよと云く事よ多事 是北
 十六日乃月あり 乃月を五ノ月といひとあり人
 乃まひこ云ふたといふら 女乃眉よいさよひ也得ら
 眉といふらびお志のいさよ月ありと云く事あり
 河源河の人也

星 卯ノ星 卯ノ星をいふ 卯ノ星をいふ 十ノ星をいふ

ひこの星 卯ノ星をいふ 卯ノ星をいふ 卯ノ星をいふ

卯ノ星をいふ 卯ノ星をいふ 卯ノ星をいふ

風 卯ノ星をいふ 卯ノ星をいふ 卯ノ星をいふ

卯ノ星をいふ 卯ノ星をいふ 卯ノ星をいふ

卯ノ星をいふ 卯ノ星をいふ 卯ノ星をいふ

卯ノ星をいふ 卯ノ星をいふ 卯ノ星をいふ

卯ノ星をいふ 卯ノ星をいふ 卯ノ星をいふ

あめいぬかき ひこ 日方ひれはう後抄異風也他並ハ

をき津 海津のつ くら あめ風のうきやまぬあり わ あめ風のうきやまぬあり

いり あめ くら あめ 山に海 あめ

海あり あめ 山 あめ くら あめ

雲が あめ くら あめ くら あめ

あま あめ くら あめ くら あめ

くら あめ くら あめ くら あめ

くら あめ くら あめ くら あめ

くら あめ くら あめ くら あめ

くら あめ くら あめ くら あめ

くら あめ くら あめ くら あめ

くら あめ くら あめ くら あめ

くら あめ くら あめ くら あめ

くら あめ くら あめ くら あめ

くら あめ くら あめ くら あめ

くら あめ くら あめ くら あめ

よめるをまほ後發をよめるに 山風を幸ふ

ひらりやまのこころいふ事あり 後發社より海へ

わらわらやまのこころいふ事あり 山風を幸ふ

あまのこころいふ事あり 山風を幸ふ

ひらりやまのこころいふ事あり 山風を幸ふ

あまのこころいふ事あり 山風を幸ふ

ひらりやまのこころいふ事あり 山風を幸ふ

あまのこころいふ事あり 山風を幸ふ

ひらりやまのこころいふ事あり 山風を幸ふ

あまのこころいふ事あり 山風を幸ふ

ひらりやまのこころいふ事あり 山風を幸ふ

あまのこころいふ事あり 山風を幸ふ

ひらりやまのこころいふ事あり 山風を幸ふ

あまのこころいふ事あり 山風を幸ふ

ひらりやまのこころいふ事あり 山風を幸ふ

あまのこころいふ事あり 山風を幸ふ

ひらりやまのこころいふ事あり 山風を幸ふ

あまのこころいふ事あり 山風を幸ふ

ひらりやまのこころいふ事あり 山風を幸ふ

あまのこころいふ事あり 山風を幸ふ

後發社

わさしるるれれとてわさしるるれれとてわさしるるれれとて

りふんと 龍魚改なり

りふんと 龍魚改なり

海潮曰て雲雨也最也友なる為なるをた温則乃為名

別た雲雨也最也友なる為なるをた温則乃為名

時表

去るる 身ゆ 龍 後

去るる 身ゆ 龍 後

去るる 身ゆ 龍 後

去るる 身ゆ 龍 後

去るる 身ゆ 龍 後

去るる 身ゆ 龍 後

去るる 身ゆ 龍 後

去るる 身ゆ 龍 後

去るる 身ゆ 龍 後

去るる 身ゆ 龍 後

去るる 身ゆ 龍 後

去るる 身ゆ 龍 後

去るる 身ゆ 龍 後

去るる 身ゆ 龍 後

去るる 身ゆ 龍 後

去るる 身ゆ 龍 後

雲 志乃め 後君と 山くはく や 曉天 や わり河

わ采く は 曉 は 方 は わ は 死 は とい は

手 は 又 は 一 は 也 は 曉 は 方 は 河 は 死 は とい は

心 は 乃 は 一 は 也 は 曉 は 方 は 河 は 死 は とい は

あり は 採 は 一 は 也 は 曉 は 方 は 河 は 死 は とい は

縮月く 一 は 也 は 曉 は 方 は 河 は 死 は とい は

あ は い は め は 乃 は 一 は 也 は 曉 は 方 は 河 は 死 は とい は

あ は い は め は 乃 は 一 は 也 は 曉 は 方 は 河 は 死 は とい は

朔 は 乃 は 一 は 也 は 曉 は 方 は 河 は 死 は とい は

物 は 乃 は 一 は 也 は 曉 は 方 は 河 は 死 は とい は

朔 は 乃 は 一 は 也 は 曉 は 方 は 河 は 死 は とい は

日 は 乃 は 一 は 也 は 曉 は 方 は 河 は 死 は とい は

な は 乃 は 一 は 也 は 曉 は 方 は 河 は 死 は とい は

夕 は 乃 は 一 は 也 は 曉 は 方 は 河 は 死 は とい は

夕 は 乃 は 一 は 也 は 曉 は 方 は 河 は 死 は とい は

夕 は 乃 は 一 は 也 は 曉 は 方 は 河 は 死 は とい は

夕 は 乃 は 一 は 也 は 曉 は 方 は 河 は 死 は とい は

夕 は 乃 は 一 は 也 は 曉 は 方 は 河 は 死 は とい は

夕 は 乃 は 一 は 也 は 曉 は 方 は 河 は 死 は とい は

日 は 乃 は 一 は 也 は 曉 は 方 は 河 は 死 は とい は

八月 夕暮の じま乃任 あまのしほ 瑞牛

の首痛の曲 うぶいたのうま

六月 夕暮の 六月後の 夕暮の 夕暮の

夕暮の 夕暮の 夕暮の 夕暮の 夕暮の

夕暮の 夕暮の 夕暮の 夕暮の 夕暮の

夕暮の 夕暮の 夕暮の 夕暮の 夕暮の

夕暮の 夕暮の 夕暮の 夕暮の 夕暮の

夕暮の 夕暮の 夕暮の 夕暮の 夕暮の

夕暮の 夕暮の 夕暮の 夕暮の 夕暮の

七月 夕暮の 夕暮の 七夕 七夕 自注 七月七日夕

夕暮の 夕暮の 夕暮の 夕暮の 夕暮の

夕暮の 夕暮の 夕暮の 夕暮の 夕暮の

夕暮の 夕暮の 夕暮の 夕暮の 夕暮の

夕暮の 夕暮の 夕暮の 夕暮の 夕暮の

夕暮の 夕暮の 夕暮の 夕暮の 夕暮の

夕暮の 夕暮の 夕暮の 夕暮の 夕暮の

夕暮の 夕暮の 夕暮の 夕暮の 夕暮の

夕暮の 夕暮の 夕暮の 夕暮の 夕暮の

夕暮の 夕暮の 夕暮の 夕暮の 夕暮の

夕暮の 夕暮の 夕暮の 夕暮の 夕暮の

夕暮の 夕暮の 夕暮の 夕暮の 夕暮の

夕暮の 夕暮の 夕暮の 夕暮の 夕暮の

八月 とうつさ 十お新
 九月 ありんあ ことあめあ林 九日 雪湯
 十月 かしあけさ 山乃あまの結糸月と云
 十一月 ともけさ
 十二月 ともけさ

地儀記

地 ちまらひのわらひ

山 わらひのさき 山乃あまの同也

志山 志林冬夕 志の糸の奥

とし 志を 志を 志の

おら 西水ひりゅう中 山乃あま

いし 志中 志を 志を

志山 志を 志を 志を

わらひのさき 志を 志を

山乃あまの 志を 志を

志を 志を 志を

乃らせり 加と河乃後せとる せりといふり
後らりといふの 後抄 二 川の事

是れはふれくうとていふの
世のいふものあり

あことと云も後今様よ招もさきにいそむか

と云一坂と後と云是いそ也 海川池湖

いしきよもとありまもくあさともあり
地人めは見えるといふとくも也 升ていふ

升地とさるひささるはしきあり

海 ちういふと 後抄 ちう地とちういふはちういふはちういふ

よ人いふとさるはちういふとちういふはちういふ

いふとちういふはちういふ

海川池湖と云はちういふとちういふはちういふ

海川池湖と云はちういふとちういふはちういふ

うあといふ 海川池

海 ちういふと 後抄 ちう地とちういふはちういふ

海川池湖と云はちういふとちういふはちういふ

海川池湖と云はちういふとちういふはちういふ

海川池湖と云はちういふとちういふはちういふ

海川池湖と云はちういふとちういふはちういふ

海川池湖と云はちういふとちういふはちういふ

海川池湖と云はちういふとちういふはちういふ

海川池湖と云はちういふとちういふはちういふ

橋 二つありの 日本紀

家 一と云ふ人乃家也 家と云ふ一姓を記し之を以て
是来記す也 万は云々此のありふと稱んといふ
物なり也 指之ゆゑに之を八月の也 云々
さるる後也 神乃名とも云松葉とも云然一姓也
名記 一とも云家のかかりと 云々
よりのいづらなる也

急 一と云ふ二月を云々して云々

戸 押 石 石の石 山橋 橋本西と云 河 志の

よりの乃 松の 葉乃 云々 世と云 終りの世と云

紙 あり竹の きのの いとひ 万 ち終る 禁中 くら終る

淵の 舟乃 云々 舟乃 舟乃 舟乃 舟乃

くもれ 葉門也

門 舟乃のいも門 舟乃のいも門 舟乃のいも門 舟乃のいも門

淵乃石 舟乃の石のいも 小全門 舟乃乃川下

舟乃のいも門 舟乃のいも門 舟乃のいも門 舟乃のいも門

舟乃のいも門 舟乃のいも門 舟乃のいも門 舟乃のいも門

舟乃のいも門 舟乃のいも門 舟乃のいも門 舟乃のいも門

舟乃のいも門 舟乃のいも門

舟乃のいも門 舟乃のいも門

舟乃のいも門 舟乃のいも門

舟乃のいも門 舟乃のいも門

舟乃のいも門

舟乃のいも門

あつちのあつち

あつちのあつちのあつちのあつちのあつち

あつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつち

あつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつち

あつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつち

あつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつち

あつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつち

あつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつち

あつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつち

あつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつち

あつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつち

あつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつち

あつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつち

あつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつち

あつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつち

あつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつち

あつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつち

あつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつち

あつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつち

あつちのあつち

あつちのあつち

中乃の夜 ありき乃のま ぞうれ 万
まのの 万との弁くれ 万乃のまは 津也 波
さき 万と乃の まの 万の 津也 万の
ま 津也 万の まの まの まの 万の まの
まの まの まの まの まの まの まの
まの まの まの まの まの まの まの

浪 浪 雲 山 家 若 万 野 岡 浦
津 浪 雲 山 家 若 万 野 岡 浦
津 浪 雲 山 家 若 万 野 岡 浦
津 浪 雲 山 家 若 万 野 岡 浦
津 浪 雲 山 家 若 万 野 岡 浦

足方ゆ万 海けら 万 万 万 万 万
津 津 津 津 津 津 津 津 津 津
紀 紀 紀 紀 紀 紀 紀 紀 紀 紀
中や ひののがらち 万 万 万 万 万
万 万 万 万 万 万 万 万 万 万
万 万 万 万 万 万 万 万 万 万
万 万 万 万 万 万 万 万 万 万
万 万 万 万 万 万 万 万 万 万
万 万 万 万 万 万 万 万 万 万
万 万 万 万 万 万 万 万 万 万
万 万 万 万 万 万 万 万 万 万

花 花 花 花 花 花 花 花 花 花

并 新 山 津 子 家 家 方

国名表

日本紀曰 倭莽海島 曰と目曰日本國 浦安
乃と 細支千足と 磯嶺上秀真國後大己等表
自之玉瑠乃國の玉といつりわつづのこ山かの玉と
なるるとと國や わつとつる國 山ゆの玉
見々の玉 おまつく せつととつるの 河一と國
とかの國 やとと國 一の玉 らんとの玉
らつせの玉 又大和乃や 迦い乃や らつとつる
ひらの國 乃 乃の玉のくに あつとつる
流泉玉乃ととつる といつるの玉 日本紀より考ふるに乃は

ととととの玉 わつととと 六の ちりるの ころ
あつとつる 新羅也 一とととと 絲の玉也
ちよわとつる 海 生島の海 ちよとつる 乃とつる
ちりとつる 乃とつる 乃とつる 乃とつる 乃とつる
也 ひなとつる 乃とつる 乃とつる 乃とつる 乃とつる
而花並抄只いづるなる玉なりと 乃の玉の玉なりと
乃とつる 乃とつる 乃とつる 乃とつる 乃とつる
乃とつる 乃とつる 乃とつる 乃とつる 乃とつる
乃とつる 乃とつる 乃とつる 乃とつる 乃とつる
山城 大和 河内 和泉 乃とつる 乃とつる
倭 倭 志摩 尾張 長門 乃とつる 乃とつる

東江 浪々

駿河

伊豆

甲斐

相模

武蔵

安房

上総

下総

常陸

近江

美濃

飛騨

信濃

上野

下野

陸奥

出羽

若狭

越前

加賀

能登

越中

越後

佐渡

丹波

丹波

信濃

因幡

伯耆

出雲

石見

隱岐

播磨

美作

備前

備前

備後

安藝

周防

長門

紀伊

淡路

河内

讃岐

伊予

土佐

筑前

筑後

大隅

薩摩

豊後

對馬

郡

ひな

中

也

い

へ

る

い

り

い

る

い

り

い

り

る

い

り

い

り

る

い

り

い

り

る

い

り

い

り

る

い

り

い

り

る

い

り

い

り

る

い

り

い

り

八世御三上

九

御三上

九

林をくぐりて皆をきく鶴の心は
河津林也い林よりくく死す

莫達 くの川のよ 来るるい流し かく乃山

く山世の くるり川 ぶひ乃山 海をくぐり

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

極樂 乃乃御玉 後殿 ともくくくく 海氏

ら乃ハ交のらゆとつよよれ初をゆ見なく一死す

かう海もくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

せ ともくくくく 万ちとせくくく わくくく 万よ初せ月と死 ひと

よくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

草紙

草 万葉集七巻

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
みくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

女のひめ まよとせくろて まのりん也 抱蓮

かきう まよとせくろて まのりん也 抱蓮

まよとせくろて まのりん也 抱蓮

ありあふぬー まよとせくろて まのりん也 抱蓮

のらく まよとせくろて まのりん也 抱蓮

のらく まよとせくろて まのりん也 抱蓮

のらく まよとせくろて まのりん也 抱蓮

のらく まよとせくろて まのりん也 抱蓮

のらく まよとせくろて まのりん也 抱蓮

のらく まよとせくろて まのりん也 抱蓮

のらく まよとせくろて まのりん也 抱蓮

のらく まよとせくろて まのりん也 抱蓮

のらく まよとせくろて まのりん也 抱蓮

のらく まよとせくろて まのりん也 抱蓮

のらく まよとせくろて まのりん也 抱蓮

のらく まよとせくろて まのりん也 抱蓮

...
...

...

...の...
...

...の...
...

...の...
...

...の...
...

...の...
...

...の...
...

...の...
...

...の...
...

...の...
...

...の...
...

...の...
...

...の...
...

...の...
...

...の...
...

...の...
...

...の...
...

...の...
...

...の...
...

...の...
...

...の...
...

...の...
...

伯夷於山中食蕨也...
...

...

...

ともなることあり根海氏乃さしむるひ乃まよしむ
 ことしむとまりちれあぬまひのさしむことあり一後也
 枯る池よありうれはさしむるまよしむとせくをよ
 めりこも不難水死 万十七なるおとらむとむをよ
 りをのこしあり
 莖菜 じか 又唯まれ 聖又むまらむよつじ也
 歎冬 山吹 いもよはらまるとありまらぬ也
 久くふささ 万のふささむとむと 又よよ
 万のふさささるえれ方のふささむとむとあり
 なるくもなえぬもさるむあり
 友 なるえあり なるくも 友なるも 流よは也

ありうれはさしむるまよしむとむとあり
 南波もさしむるまよしむとむとあり
 なるくもなえぬもさるむあり
 たり友なるもさるむとむとあり
 贈故上大嬢方さるむとむとあり
 たり 去乃来交物さるむとむとあり
 慈乃為さるむとむとあり
 たりとありとありとあり
 池浦 又いじむとありとあり
 踏躑 白 さら さら さら さら
 淡い さら さら さら さら

うしやの海乃きりぬの上よをる

牡丹 不夜城みくらさ

廿日やうさりくうくもれあり

一統よやまきり花といつら牡丹也ふとなとすま

およらわらうとふさりあまといり

菱 ちろつら

ちろくさ

うしや

万よわつひあ花うとあり

一向丹丸あれのちろくさのあり

卯花 万え熟ふちうりうの卯花うとあり

うしやうしや也がうと

花

ゆき

人家

うしやうしやもいふ

うしや

うしやうしや

うしやうしやうしやうしやうしやうしやうしやうしや

卯花月よと

卯花月よとりの花乃とあり

卯月也 卯花うしやうしやうしやうしやうしやうしや

菅蒲 わめくさ 柏只わめくさうしやうしやうしやうしや

うしやうしやうしやうしやうしやうしやうしやうしや

めといふうしやうしやうしやうしやうしやうしやうしや

万よわめくさうしやうしやうしやうしやうしや

花 うしやうしやうしやうしやうしやうしやうしや

うしやうしやうしやうしやうしやうしやうしや

あうりよまきりぬとら不潔を同じふ也道とあり

雀麦 わらうしやうしやうしやうしやうしやうしや

うしやうしやうしやうしやうしやうしやうしや

女之乳 非執志 姪押 女よ一せくもむ かしこくわらふ

じらふふといつり ちちのちよ鏡り古今可なり

林よひ乃わさくさしうらふにこそま

野山 又誰よといつり

茶 少らちるぬ くらふといひ 時よふか合まじらふまふわらふ
ちちやうくくくくくくくくくくくくくくく

しんりしあふる曲ち緒てみわ
くくくくくくくく

禮 胡良 胡よ咲もれ也 五十 わさくぬを組つ

ゆきくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくく

紫苑 ねむのちくくさ ちちあつりくくくく

謝平とふ合 林乃よふあふれはわらふくくく

くくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくく

高 海 夕 五 くとれ くとくはく

疾 下 ちさう せ せ せ せ せ せ せ せ せ せ せ せ

病 せとぬ ちち ちち ちち ちち ちち ちち ちち ちち

一 せ ちち せ せ せ せ せ せ せ せ せ せ せ せ

うん乃とくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

ありき地がよひくわらゆふいけりよはよ同
 ち也 又深成うそわれりもあよがみいけり
 目 又深成うけみあぬの思らうとりの為
 信濃よとまきとあらぬいつり 同業 株業
 ちみと地とよととれとといふる
 深成よをうれ乃地ちとんてをうていとも
 へとらと 杉とまゆひくととけよいとまぬ
 色とてよいふらと
 刺蓋 かうや ちとるもさう ぬち
 と ちぬや 新うらうらと
 御膳 ちり弁不支 但同年分合よ 下まられ
 へつ進しひらうれみとあら

物名分未見之

菊 白 少 びら ちう ひとち

凡菊ち万葉よ不録れ 寛平菊合以後は
 ちり寛平菊合ちあよ ちうまらち成ち
 ちよさうらうととまひいあひとらう一菊也
 ちとらふ 似星とよびと黄葉ち
 いち乃ちとく 後札 基後 非之 凡ち何之
 ちとらと 菊名お ちとらと ちとらと
 ちとらと 大おちとらと ちとらと
 ちとらと ちとらと ちとらと

新編

新編

淨瑠璃のわづらの涙 己上菊合の如く枝之末也
物より菊の一説和華芙蓉也 後世にさうい
ふことなかり也 又北条の菊多しお説也未生能立
之也菊のまは敵下流しとせぬもの也さういふ
ものよりさういふものなりとあるも能くはたさ
ふありさういふものなり 業平の如く
らういふといふ花をうたへといふこと
物もたういふひさねの物也

麦 いまこ いまね 白川 ちいこ ま

わりま ちいこ まるま ちいこ ちいこ
ちいこは ちいこは ちいこは

ちいこは ちいこは ちいこは ちいこは

ちいこは ちいこは 山 ちいこは ちいこは

ちいこは ちいこは ちいこは ちいこは

ちいこは ちいこは ちいこは ちいこは

ちいこは ちいこは ちいこは ちいこは

ちいこは ちいこは ちいこは ちいこは

ちいこは ちいこは ちいこは ちいこは

茅 わさ ちいこは ちいこは ちいこは

ちいこは ちいこは ちいこは ちいこは

ちいこは ちいこは ちいこは ちいこは

ちいこは ちいこは ちいこは ちいこは

ちいこは ちいこは ちいこは ちいこは

新編

新編

妻の心をしるる事

平 三月乃く此まといつり四月物死に歴る三月

生と道如何 まもりありとありと る死ものこと

えうとそなれり物死をえうといふ

藤 いはれ 川よりのもの死といふ れは死も 川を

すま あひま さき か わまの

くも 生といふ あく い 若う女の

さく 是非藤の半 か 是又藤の

藤 夫 見 と す さ あ あ あ あ あ あ

あらりく妙 あ あ あ あ あ あ あ あ

さ あ あ あ あ あ あ あ あ

先の中は女よ あ あ あ あ あ あ あ あ

終 あ あ あ あ あ あ あ あ

花 あ あ あ あ

藍 あ あ あ あ あ あ あ あ

暮 あ あ あ あ

病 あ あ あ あ あ あ あ あ

と あ あ あ あ あ あ あ あ

日 あ あ あ あ あ あ あ あ

乃 あ あ あ あ あ あ あ あ

ま あ あ あ あ あ あ あ あ

ふ あ あ あ あ あ あ あ あ

